

添田町地域公共交通計画【概要版】

令和6（2024）年3月

1 計画の趣旨・期間

本計画の趣旨・期間は次のとおりです。

計画の趣旨

本町の公共交通としては、JR 日田彦山線、日田彦山線 BRT、西鉄バス、町バス、デマンド型乗合タクシー「まちいこカー」、そしてタクシーがあります。

人口減少・少子高齢化が進展し、利用状況や地域ニーズ等を踏まえた運行サービスの見直しや、地域住民と連携した移動手段の確保など持続可能な地域公共交通の実現が求められている中、地域公共交通の現状や課題を踏まえ、持続可能で利便性や効率性の高い公共交通網の維持・確保に向けた取り組みを実現するために「添田町地域公共交通計画」を策定しました。

計画期間

計画期間：令和6年度から令和10年度の5年間

2 地域公共交通を取り巻く現状と課題

各種調査結果から、地域公共交通を取り巻く現状と課題は以下のとおりです。

取り巻く現状

①地域公共交通の利用状況

- ・利用者数は減少傾向。直近2年間は、新型コロナウイルス感染症に伴う外出抑制等も影響。
- ・利用者が減少する中、利用者1人当たりの運行補助額は増加傾向。
- ・町内・町外への従業者・通学者の8割以上が交通手段「自家用車のみ」。

②地域公共交通に対する町民等の意向

（町民）※昨年度実施の公共交通アンケート調査結果

- ・外出頻度が少ない人ほど目的地までの移動に不便を感じている。

【公共交通機関別の主な改善要望】

- JR 日田彦山線：便数や駅構内・車内環境の美化、時刻表などの周知
- 西鉄バス・町バス：便数や路線・時刻表などの周知、日田彦山線との乗継
- まちいこカー：乗降場所や運行回数・運行日、利用方法等の周知

（来訪者）※昨年度実施の BRT 沿線の観光資源等に関する認知度・来訪意向調査結果

- ・居住地から添田町までの交通手段は、自家用車の割合が約9割。

【BRT の主な利用促進策】

- 1日乗車券の販売、パーク＆ライド駐車場の整備、博多駅や小倉駅からの企画乗車券の販売など。



JR 日田彦山線



西鉄バス



町バス



まちいこカー



日田彦山線 BRT

課題

■路線の役割に応じた運行水準の維持

- ✓ 今後も各路線の役割に応じた運行水準の維持を図る。

■利用状況や地域ニーズ等に応じた最適な公共交通の運行、運営方法の検討

- ✓ 公共交通の継続のためにも、利用者の状況や地域ニーズ等に応じた最適な公共交通の運行、運営方法を検討する。

■中山間地における移動環境の確保

- ✓ 移動に支援が必要な方でも安心して生活ができるように、福祉施策と併せて、総合的に移動できる環境を整える。

■公共交通の利便性の向上

- ✓ 町内と町外とを結び、日常生活だけでなく余暇活動や観光などでも利用が期待される公共交通の維持・充実を図る。
- ✓ 町内の公共交通手段が複数あるため、誰もがわかりやすく、利用しやすいサービスを整える。

■公共交通利用の意識啓発・利用促進

- ✓ 高齢者や学生のみならず、町民全体の公共交通利用の意識啓発に取り組み、利用促進を図る。
- ✓ 町外からも、環境負荷が低い公共交通の利用促進を図る。

■公共交通の担い手の確保

- ✓ 公共交通の維持・充実のためにも担い手の確保を図る。

3 将来像・基本方針・計画目標

現状と課題を踏まえ、地域公共交通の将来像及び基本方針、計画期間における目標を次のように決めました。

将来像 暮らしと交流を支える地域公共交通を実現する

自家用車での移動が中心の本町にあって、人口減少や高齢化が進展する中でも高齢者や障がい者をはじめ、町民が通勤・通学や買い物・通院などの日常生活を送ることができるように、交通結節点を中心とした地域公共交通ネットワークの維持・充実を図ります。

また、英彦山を中心とした観光振興や、周辺自治体と連携した取り組みにより、町内と町外とを結ぶ公共交通の利用促進を図ります。

基本方針 1

町民が利用しやすい持続可能な公共交通体系を実現する

目標 1

公共交通の効率性を高める

町民が利用しやすい持続可能な公共交通体系の実現に向けて、町バス及びデマンド型乗合タクシー（まちいこカー）については、利用状況や地域ニーズなどを踏まえて運行サービスを見直す。また、幹線については、それぞれの役割に応じた運行水準の維持を図る。これらにより、地域の状況に応じた最適な移動手段の確保を図り、公共交通の効率性を高める。

基本方針 2

町外も含めて公共交通を利用する人を増やす

目標 2

利用しやすい環境を整える

時刻や乗り場、運賃など、公共交通機関を超えた円滑な乗継環境の構築、交通結節点における乗継利便性の向上など、来訪者にとっても利用しやすい環境を整備する。

基本方針 3

町民・行政・交通事業者・地域みんなで公共交通を支える

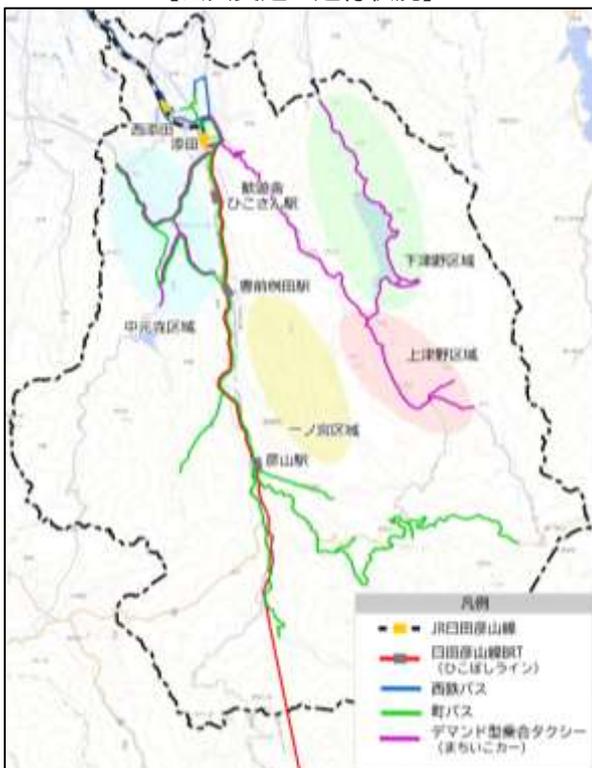
目標 3

今ある公共交通を

最大限に活かす

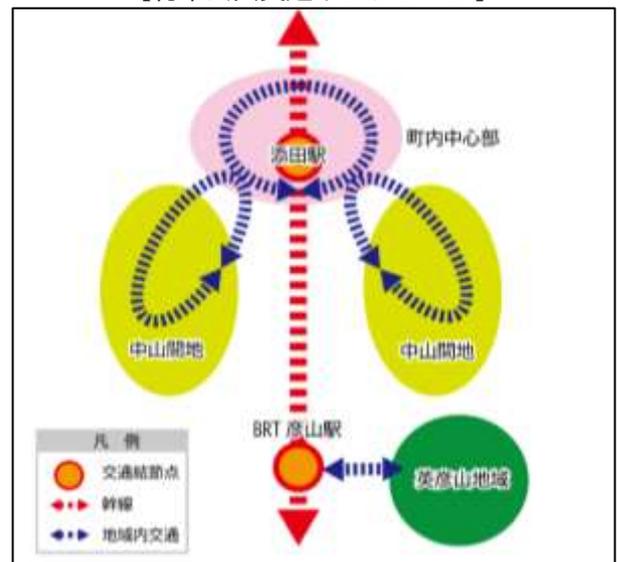
公共交通の利用者増加に向けて、公共交通に関する情報提供・啓発活動や、利用促進に向けた取り組みの充実を図るとともに、公共交通の担い手不足の現状を踏まえ、担い手確保に取り組む。

【公共交通の運行状況】



※上記に加え、民間タクシー事業者1社が営業

【将来公共交通ネットワーク】



町民の日常生活における地域内の移動を基本に、英彦山を中心とした来訪者の移動まで幹線（JR 日田彦山線、日田彦山線 BRT、西鉄バス添田線）や地域内交通（町バス、まちいこカー）が各役割に基づき運行し、交通結節点で円滑に接続する公共交通ネットワークを目指す。

地域内交通は、利用状況や地域ニーズなどに基づき、利便性の向上や効率的な運行に向けて継続的に運行内容の改善等を図る。

4 各計画目標の評価指標と目標値

本計画は、設定した目標及びその指標の達成状況を見ながら、計画の進捗状況を管理します。
各計画目標の評価指標と目標値については、次のとおりです。

目標1 公共交通の効率性を高める

指標	基準値 (R4)	算定方法・考え方	評価方法
	目標値 (R10)		
町バスの収支率	5.3%	年間利用料収入÷運行業務委託料×100 ※日田彦山線 BRT 運行開始に伴い、運行見直し（路線減）を行っており、年間実績がないため、R5.9～12 実績より年間利用料収入（見込）を算出し、目標値を設定。	町資料より、 毎年度確認
	4.1%		
町バス1人当たりの運行補助額	2,748円	運行業務委託料÷年間利用者数 ※R5 運行業務委託料、年間利用者数の目標値により目標値を設定。	町資料より、 毎年度確認
	4,080円		
まちいこカー1人当たりの運行補助額	5,913円	運行補助金÷年間利用者数 ※R5.8より運行区域増となっており、年間実績がないため、R5.9～12の平均を基に補助金額、利用者数を算出し、目標値を設定。	町資料より、 毎年度確認
	7,086円		

目標2 利用しやすい環境を整える

指標	基準値 (R4)	算定方法・考え方	評価方法
	目標値 (R10)		
BRTと町バスの接続本数(15分以内)	—	R6.3のダイヤ改正時点を基準とし、その水準維持を目指す。	各公共交通事業者のダイヤ改正時期に合わせて確認
	16		
日田彦山線BRTの年間利用者数	—	1日当たりの平均輸送人員×365日 ※開業効果もあり、利用者数は平常値よりもかなり多かったと推察されるため、R5.12の値(約250人/日)の水準維持を目指す。	事業者提供資料により、 毎年度確認
	91,250人		
西鉄バス添田線の年間利用者数	65,656人	令和4年度実績の維持を目指す。	事業者提供資料により、 毎年度確認
	65,656人		
町バスの年間利用者数	7,949人	日田彦山線 BRT 運行開始に伴い、運行見直し（路線減）を行っており、年間実績がないため、R5.9～12 実績より年間利用者数（見込）を算出。 今後、本計画の施策を取り組むことで、5%増を目指す。	町資料より、 毎年度確認
	5,400人		

目標3 今ある公共交通を最大限に活かす

指標	基準値 (R4)	算定方法・考え方	評価方法
	目標値 (R10)		
町バス1便当たりの利用者数	4.4人/便	年間利用者数÷年間運行便数 ※年間利用者数の目標値と R6.3 のダイヤ改正時点の年間(計画)運行便数により目標値を設定。	町資料より、 毎年度確認
	1.5人/便		
まちいこカー1便当たりの利用者数	1.35人/便	年間利用者数÷年間運行便数 ※福岡県生活交通確保対策補助金の補助要件(1.5人/便以上)を目指す。	町資料より、 毎年度確認
	1.5人/便		

5 目標を実現するための施策

本計画で掲げた目標を実現するための施策は次のとおりです。

目標1
公共交通の効率性を
高める

施策1 役割に応じた運行サービスの維持

- 1) 町バスの利用状況等に応じた見直し
- 2) まちいこカーの利用状況等に応じた見直し
- 3) 幹線の運行維持
- 4) 新たな移動手段に関する調査及び導入に向けた検討



町バス

目標2
利用しやすい環境を
整える

施策2 交通結節点における利便性の向上

- 1) 公共交通機関同士の乗継利便性の向上
- 2) 案内・情報提供の充実
- 3) 添田駅西側（峰地方面）からのアクセスの検討



添田駅（鉄道とバスが
同一ホームで乗換可）

施策3 円滑な利用環境の構築

- 1) GTFS^{*}に準拠したオープンデータ化
- 2) 公共交通機関におけるキャッシュレス決済への対応に向けた検討
- 3) 車両や駅・バス停周辺など快適な利用環境の整備

目標3
今ある公共交通を
最大限に活かす

施策4 公共交通に関する情報提供・啓発活動の実施

- 1) 出前講座、乗り方教室等の実施
- 2) 公共交通マップ等の発行
- 3) 公共交通の担い手確保に向けた情報発信



出前講座等のイメージ

施策5 公共交通の利用促進に向けた取組の充実

- 1) タクシー利用助成事業の実施
- 2) 公共交通割引制度の実施
- 3) 他分野と連携した移動需要の創出

※GTFS：General Transit Feed Specificationの略で、経路検索サービスや地図サービスへの情報提供を目的に、アメリカで策定された世界標準の公共交通データフォーマットのこと。

6 計画の評価方法

本計画は、添田町地域公共交通会議において毎年度、計画全体の推進及び事業の進捗状況について評価し、事業等の改善につなげることで、着実な推進を図ります。

計画4年目時点には最終評価を行い、計画5年目時点で次期計画策定に向けた検討を進めます。

	令和6年度 1年目	令和7年度 2年目	令和8年度 3年目	令和9年度 4年目	令和10年度 5年目
計画に記載 した事業	実施 (D)				
評価・改善	事業 評価 (C)	事業 改善 (A・P) 事業 評価 (C)	事業 改善 (A・P) 事業 評価 (C)	事業 改善 (A・P) 事業 評価 (C)	事業 改善 (A・P) 最終 評価 (C)
計画改定					新たな課題 等の整理 ↓ 次期計画の 検討

本計画に関するお問い合わせ先：添田町地域公共交通会議（事務局：役場まちづくり課）

〒824-0691 福岡県田川郡添田町大字添田 2151 番地

[TEL] 0947 (82) 5965 (直通) [FAX] 0947 (82) 2869 [mail] machidukuri@town.soeda.fukuoka.jp